

第5回 富田林市金剛地区再生指針策定協議会 会議録

日 時：平成29年3月22日（水） 午後2時～4時

場 所：富田林市役所3階 庁議室

出席者：○協議会委員 17名

友田委員、中井委員、溝口委員、山田委員、吉村委員、増田委員、
小野委員、原山委員、寺田委員、藤本委員、中谷委員、市川委員、
中西委員、井筒委員、北野委員

東委員代理：和田氏、三崎委員代理：藤原氏、

○事務局 5名

まちづくり政策部 坂本次長

まちづくり推進課 仲野次長代理兼課長、尾崎課長代理兼政策係長、
坂口地域整備係長、竹内

○コンサルタント 2名

株式会社市浦ハウジング&プランニング 小倉、西村

○傍聴人 2名

会議記録

1. 開会

（事務局：仲野）

2. 議事

（1）パブリックコメントの結果について

（事務局：坂口）

- ・資料1説明。

（2）金剛地区再生指針（案）について

（市浦H&P：小倉）

- ・資料2、3説明。

（増田会長）

はい、ありがとうございました。ここ4回ですね、策定協議会としては。意見交換会は5回して

いただいて、今日に至ったと。で、パブコメもさせていただいたという状況でございます。何かお気づきの点ございますでしょうか。基本的には、今日お手元に置いてあります再生指針案をお認めいただいて、これから意見いただくのは来年度これが推進協議会、あるいはまちづくり会議へ繋がっていくような意見でも結構ですのでいただければと思います。いかがでしょうか。たぶん今日最後ですので、ここをああせいこうせいっていうのはたぶんないと思うんですけど、少し将来に向けてということもあって、できましたらちょっとご指名して悪いんですけど、順番に少し感想も含めてちょっとご発言いただけますかね。小野先生からお願いしてよろしいでしょうかね。

(小野委員)

はい、これまでやってきた形がこういう形になってきたということで、まずは今最後に出てきたこれからについてなんですけど、まちを運営する仕組みのっていうのが、このあたりに書いている36ページ以降のところなんですけど、今後まちづくり会議の設立。だから要はこれが本当に実動するのかっていうのがあると思うんですよ。それで今回このメンバー先ほど、後ろの方に集まるメンバー出てきていますけど、実質的な話し合いをじゃあどこでするのかなって若干あって、このくらいの広がりの中で実績なものが出るのか、もうちょっとワーキング的なものをつめていって、先ほどのようなどうしていくのみたいなところを話し合うのか、そのあたりのイメージはどこかで出しておく必要あるだろうなと思います。で、かなりメンバーの広がりはあるとは思いますが、実は地域の中にもっといろんな人たちもいますので、そういう人たちの声を拾いながら、どういう風な形で進んでいくのかっていうのは、まさにこれからの課題なんだろうなというのは思っています。本当に今は行政だけでなく、あるいは住民だけではなくて、相互のいろんな人たちが入っての協働っていうものが解決の鍵を握る時代になってきましたので、そこをまずどうつくれるかが本当に決定的だと思っていますので、そこが一番個人的には気になる場所です。まずはその一点のみです。

(増田会長)

はい、わかりました。後で来年度に向けてということで、これも非常に上手いやり方やっていただいて、普通4月3月に案が出来ると、次立ち上がるのが、活動が9月とか10月になるというのが行政のモットーですけど、この協議会からの継続については5月でも。あるいは今日もありますようにもう4月2日にお祭りをしようということになっていますので、継続していくかという。あとで議論させていただきたいと思います。ありがとうございます。中谷委員どうですか。

(中谷委員)

はい、先ほど小野先生がおっしゃったところと同じ感想を抱いてるんですけど、内容的にはすごくボリュームがあって、課題をたくさん抽出してその課題を解決するという作り方をしていますので、ある意味たくさんの課題、たくさんの解決策が盛り込まれている。ある一面で言うと、いろんなこと盛り込んだのかなという感もあります。ですので、これを実現していくために、この短期っていうだけでもたくさんの項目があって、じゃあこの中で例えば重要性だったり、やりやすさだったり、効果の大きいものだったり、どういう視点でリーディングプロジェクトの順番を付けて

いってというのがこれからの大きな課題になってくるのかなという風に感じました。

(増田会長)

なるほど。はい、ありがとうございました。市川委員どうですかね。

(市川委員)

そうですね。今回こうやって会議に参加させていただいて、今回読ませてもらった中でもすごく課題がいっぱいあるんやなと思わせてもらいました。実際、何かこの会議をしたことによって、形として生まれてくるものが一つ一つでもあれば。僕ら今にぎわい創出実行委員というので金剛バルっていうのを一つ形としてやったことによって、何か一つの結果が生まれてくるっていうことやと思いますので、何か形として残ることを一つ一つでもやって、また結果を見てっていうことで進めていけたら僕はいいんじゃないかと思っています。

(増田会長)

なるほど。ありがとうございます。中西委員どうですか。

(中西委員)

非常によくできていると思うんですけども、やっぱりこのままいくと総花的なもので、これもいいねあれもいいねで結局どれも出来なかったっていう、結構こういう指針つくったときにありがちなんで、そのあたりは逆に言うと、さっきの優先順位を付けるという部分ときちんとワーキンググループをつくってやっていけるかどうか。そのあたりが課題かなと。

もう一つは、僕ら事業者の視点になると、正直言って今、事業者自体もいろいろ例えばサービスどうのこうのっていう具体的な数字が出てきても、現実に儲かってないと事業者は何もできない。そのところもやっぱり考えていかないと、ちょっとなかなか難しいんじゃないかなと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。和田委員どうぞ。

(東委員代理：和田氏)

はい、和田です。パブコメの方にも最後あったんですけど、全く同じ意見で、私も地域福祉計画、活動計画の方に携わってこさせてもらって、パブコメの28番を念頭に置いてきたんですけども、まちづくりの担当課の方々はそれぞれの施策の会議に積極的に参加されているのを見ておりましたので、また地域にも足を運んで、今後もすごく期待できる。これを一つずつ実現できる担当課じゃないかなと期待しております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。

(井筒委員)

これまでもこの素晴らしい金剛地区再生指針つくっていただきまして、ありがとうございます。これを読んだときにすごくボリュームがあって、わかりやすいんですけど、でも具体的にこれを見て私何をしたらいいのかなっていうのが、まあ今後のこの後の金剛地区再生の実現に向けてっていうところで細かい話になっていくのかなと思うんですけども、これは皆さんと意見同じで、たくさんある中でどこをこう優先順位を付けるのかいうところと、実際これをする中で住民さんで住んでる方自身がその自覚というか、私たちのまちを自分たちでつくるんだというその思いと一緒にやっていかないといけないなと思っていて、そこをどう一緒にやっていけるかということも今後考えていかないといけないと思いました。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。部長は最後にしますか。

(藤本委員)

これまで皆様おっしゃっているような感想と私もほぼ同じです。総花的ではあるかもしれませんが、一定は具体的な方向性、方針というものが記載されておりますので、先ほどもご意見ありましたように、これをご覧になられた住民の方がじゃあ私はこういうことを一回やってみようかということには繋がるものになったのではないかなと思っています。URとしてもここに書かれたことを意識はしながら、これからも団地の活性化、コミュニティの活性化みたいなものには取り組んでいきたいなという風に考えております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。続きまして寺田委員ですかね。

(寺田委員)

ちょっと今までもずっと意見出ているんですけども、これだけ分厚いものになり、意見いっぱい出てそれが全部反映されているのかなと思うので、これだけのことが実現できれば僕もぜひ金剛に住みたいと思うんですけども、やっぱり今もあったんですけども優先順位をどうするかっていうのが非常に大事だと思うんですが、ちょっと個人的な意見としてももちろんやる内容だったり中身だったりは大それたと思うんですけども、何よりもちょっと広報に力を入れた方がいいんじゃないかなと思って、これつくったけど金剛の人がどれだけ知っているかなっていうと、これから実現に向けてここにいる人たちだけじゃなくていろんな人に参加してもらおうと思った時に、やっぱりこの存在、これから何をするかっていうのをもちろん富田林市外へのアピールっていうのは大事やと思うんですけど、中へのアピールもぜひ力を入れて欲しいな思いました。以上です。

(増田会長)

はい、わかりました。ありがとうございます。

(原山委員)

はい、これ以上に素晴らしいものはないのでこれ全部やったら言うことないんですが、しかしこれはだれがするのか。そうでしょ。今は超高齢化社会においてね、僕ら民生委員だって役員あります。しかし誰が付いてくるか。地域ですよ。あとはみんな自治会の会員数も減っていると。老人クラブの会員も減っていると。福祉委員会の参加者も減っていると。そういう超高齢化の中で中々外に出る機会がない。で、これ何ぼ素晴らしくできても、絵に描いた餅では意味がない。そうであって皆さん方から意見が出ましたがね、やっぱり順位を付けてやろうという意味でそういう方向でいかんことには、これ皆さんでどれ先に順番付けましょうかではだめだと思っんですよ。やっぱり皆さん方で協議して自分らで決めて、とりあえずこれやりましょうと、協議してきちんと決めて、そうやっていかなければ、ほんまにせつかくええ案がね、もったいないなと思います。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。吉村委員ですね。

(吉村委員)

全く個人的な感想になるんですが、僕は富田林市住みやすいなということで、これが維持されたいという思いで、これ参加しているんですけども、この一年間の話し合いを通じて、改めて富田林の特徴いうのかな。緑のこととか、交通のこととか、再認識させてもらったなと思っています。

この前意見交換会あった時に、こんな案が出てましたからね。かなりいいものが出てきているけども、総花じゃないかって今のような意見出てて、その時イベントとかどうしたらいいんかとか、あるいは今出していた広報なんか大事ですねって出た時にやっぱりそこに参加されていた方が非常に普段からそういう地域活動とかやっておられる方がたくさんおられて、いっぱい意見が出てて、これが各チームの、ここで書いてある取り組みの進め方ですか。チームっていうのはこういうこと話していくとこなんかなっていう具体的なイメージを僕そこで持ったんですけども、そういうものを今後形としてまずつくれたらいいんじゃないかなとすごく思いましたんで、その流れの中で4月2日のさくらのやったらどうやっていう、誰も知らん中では本音は出しにくいやろうからっていうことで話出てきましたんで、そういうことで何か進み始めているんかなっていう気を持ったんで、非常にいいことだなと思っています。

僕個人的には、やっぱり他の人にまちのどんなことがいいとか、まちづくりのことで若干意見聞いたりすると、具体的に良くなったものが出てこないとやっぱりなかなかイメージがね、展望的なものが見えてこないんで、やっぱりまずは何か変わったなということつくらなあかんちゃうかなと。で、僕思っているのは、いろんな人の意見聞いてたら、やっぱり高齢者の方とか、障がい者の方もそうやと思います、移動のことはすごく困っておられるなあと。他の地域でもこういうことやっている話聞いたことあるんですが、やっぱりバスがあったら一番ええなっていうのが一番出ているみたいで、バスが非常に今減ってきているということがね、地域でも問題になっているみたいで、そうするとやっぱりコミュニティバスのあれが第一かなということと、あと若い人の話聞いていると、やっぱり子どもの保育所の問題。一番やっぱり聞くことが多いので、ここでこんな提案するわけじゃないんですが、バスあるいは保育園とそういうものがまず進めて行けるような、なったら

ええんちゃうかなと。そのためにさっき言ったチームね、どうつくったらいいんかいうこと、ぱっと出てきたらええかなっていう風に思っているんですけど。いろいろ活動されている、経験されている方が多いなっていうのが、僕は全然ないなあと。僕は頭で考えたり、思っているだけで、実際活動したことないんで、それにははっきり言うて驚きましたので、やっぱりそういう点では、広報通じてでも、いろんな方の意見貰えれば良くなっていくっていくんちゃうかなとすごく感じています。そういう感じです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。山田委員どうぞ。

(山田委員)

本当に、皆様の意見とか、先生方の意見とか反映されて立派なものが出来上がってきたと思うんですけどね、ただいい意味でも悪い意味でも、教科書みたいな感じの印象を受けるんですわ。結局、金剛っていう地域ですよ。この地域やからこれができたのか、今の時代背景ですよ。今言った少子高齢化、他の地域でもこれが当てはまってしまふ。普通って言ったらちょっとあれなんですけど、一般的なものにちょっと出来上がっているような感じがするんですよ。だから本来やったら、この南大阪の金剛地区の特異性を持ったものがもうちょっと出来ていっても良かったんじゃないかなと。で、あとは実際地域が持ついろんな問題とかがあるんですが、やっぱりこれからの都市再生っていうのは、ハード面ではなくてソフト面。相互関係においてタグを組んで、再生していかないといけないなっていうのは、これ本当に浮き彫りにされたと思うんですね。で、今後私ら地域住民として、地域の事業者として、どういう風にしていくかっていう一つのきっかけになってですね、本気でこの問題を考える、指針として一致団結して、できたらいいなと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

これまで5回にわたって意見交換会、そして今日の策定協議会、策定協議会は最後になるわけですが、今までの意見交換会の中で、出された意見が網羅されたこの案と。具体的な今後ですね、新たに発足するであろうまちづくり会議とか、そういうところで具体化されていくんであると思いますけれど、今いろいろ皆さん言われたように、この文章が総花的で、あるいは抽象的だってことはやむを得ないと思うんですよ。ただ今後、例えば防犯の、あるいは防災の項目なんかで実際に防犯で各地域自治会、どのようなことを具体的にやっているのか、これがこの間の意見交換会でも出されてなかった、あるいはあるのかないのか。例えば金剛団地の中では12か所、防犯ベルっていう抑止効果を持ったまちの番っていうシステムがあるんですね。そういうのがどういう稼働がされているのか、あるいは他の町会でそういうものが出されているのか、あるいは防災に関して防災グッズなどがどれだけ確保されて整備されているのか、これは行政がちゃんと把握しているのか。それは今後、具体的にやっていく中で、行政の責任っていうのも出てくるんだろうと。だから私ど

もの金剛団地自治会としてはパブコメに自治会として意見出して、最後にちょっときつい言い方ではありますけども、行政の責任回避であってはならないということで、今後具体的な中身をつめていくっていうのは行政の責任と同時に我々居住者の、あるいは住民の責任になっていくのかなと、ぜひこの案を具体的に膨らませていけるような方向にいければいいのかなという風に感想を持っております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。友田委員どうでしょうか。

(友田委員)

総花的っていうのがちょっとありましたけども、私ここの協議会に出てまして、皆さんいろんな活動もされてて、その各々の一番やりたいところとか、そういった課題認識のもとにいろんな意見言われて、割ときっちり盛り込まれて割と地域に根差したいいいものができたと思ってます。やはりこれから何が大事かって言うたら、今はこういった熱心な方々でつくりましたけども、やはりいろんな方々もこれからは参加いただくという風にかにしていっていかってということが一番大事で、それは子どもであったり、老人であったり、若者であったり。で、そういった今まで無関心の方々をいかに関心をこれに持ってもらうかっていうこと、やっぱりこれから一番大事になってくるであろう。それとやっぱりリーディングプロジェクトって今言われてますけども、それをどういう風に議論しながらつくるのかとか、そのリーディングプロジェクトにどういう方々を参加させて、それを動かしていくのか。どういう内容、どういう役割をそこに持たしていくのか。それをきっちり組み上げて、そこにみんなが参加できるような仕組みとか、そういったことをしながらだんだんだんだんこの再生指針に興味を持ってもらうとか、金剛が動いていくなという意識を育てていくとか、これからそれを次のステップとして、やっていくことがものすごく重要で、これはこれで一つの方向付けできるもので、これに基づいて優先順位という、大きいことから大きい課題からしなくても、たぶん皆さんがとっつきやすいところからリーディングプロジェクトつくって、参加しやすいかたちで一つ見せていけば、広がっていくのかなって思ってますので、やっぱり次のステップに期待しています。

(増田会長)

なるほどね。わかりました。ありがとうございます。ちょっと副会長にいく前に部長にいきましょうか。

(北野委員)

いろんなご意見、本当にありがとうございました。この一年かかってこれだけのものが出来上がったということに、非常に喜ばしく思っております。その中の今日の会議の中でも、いろいろ意見が出てますけども、確かにこれをどうやって実践していくか、今まで行政がこれをやりましょう、あれをやりましょうではなくて、今後つくっていく新しいまちづくり会議であるとか、その中でいろんなことを議論しながら一つでもいいから取り組んで、まずは実績つくりたいなと考えてい

ます。その中で、どれに取り組むかっていうのは、先ほど友田委員からもありましたようにまずは手短なところからでもいいと思うんですけども、何か一つやってみてそこから新しい人材をどんどん発掘していけば、何かもっとすごいまちづくり会議が出来上がって、金剛地区の活性化にも役立つと思いますので、一つでも多くの事業に出来るように、また皆さんのご指導の方よろしく願いいたします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。副会長さんどうでしょう。

(中井副会長)

皆さんご苦労さんでございました。先ほど話があって、今総花的って話もありましたけども、これはどうしてもいろんな活動をやっている方、ご意見を集約したと言いますかね、全部を拾ってきた。これはだめこれはだめと捨てていってなくて、基本的にみんな拾っていつつ作られてる。そういう意味でもいろんな具体的な取り組みもここに表されていて、これを今後どうして実現していくねんというのがたぶん一番の課題だろうと。で、先ほどから話がありますように、リーディングプロジェクトっていうやり方でやっていこうということなんですけども、そしたら何がまず一番重要なのか、取り組みのところで一番取り組みやすいところから、友田委員も言われたと思うんですけど、まず取り組みやすいところからやっていくのかなと。それは、意見交換会でもそうなんですけどいろんな方おられるんで、それぞれ取り組みやすいのが違うだろうと思いますので、一つのリーディングプロジェクトというよりはいろんな方の志向に合ったと言いますかね、そういうところで三つでも四つでもプロジェクトをつくってみて、それで中心なる人を拾い上げてくるということで進めていくのかなという風に今感じています。

あとはですね、意見交換会でも私言ったんですけど、実は私町会の役もやってましたけど、なかなか町会という中でこの再生指針に取り組んでいるということ自体があまり知られていない。一応この間の総会では、ご説明しましたけども、それだけでは進まないのをこれを実際動かす段階では住民の中での町会の役割。あとはもう一個、あの場でも言いましたPTAの、PTAというか子どもさんとの取り組み。この辺を考えていただいて、プロジェクト展開していただいたらなと思います。副会長として何も会長の手助けできないんですけど、皆さんありがとうございました。

(増田会長)

ざっと一人ずつご意見いただきまして、ありがとうございました。たぶん皆さん方ほぼ同じご意見をいただいているという風に思います。総花的っていう問題は、一つ社会現象とか文化やとかいうのは、同時多発的に起こるんですね。特定の地域だけで特定の問題が起こるというのもありますけども、多くの場合は同時多発的に。だからどこのニュータウンでもやっぱり近隣センターなり、商業施設のやっぱり維持というのが問題になってきますし、どこのニュータウンでもやはり少子高齢化への対応をどう考えていったらいいかっていう話ですし、どこのニュータウンでも住宅流通っていうのをどう考えていくのかというある一定共通性を持たざるを得ないっていうのは仕方がないと思うんですよね。ただ、その共通性の中から、ここもだいたいご議論いただいてよかったなと思っ

ているのは、魅力と課題という形ですね。もっと魅力あるんでしょうね、きっとね。通常の報告書とかは課題ばかり書いているんですけど、それでは両肩に皆が重すぎて動き取れへんやろうからという話の中で、この7ページからずっと整理いただいているのは、金剛ニュータウンが持っている魅力ですよ。もっともっといっぱいあると思うんですけど。大きくこんな魅力があって、これを大切にしながら展開をしていきたいと思いますという課題解決型に見えているのはまだもうちょっと文章能力が足らんのかもしれませんけども、むしろ課題解決型よりもむしろこういう持っている、皆さん方が持っている、あるいは我々が持っているポテンシャルをどう顕在化していきましょうかというあたりのスタンスとしてある一定まとめれたんかなという風なことを思っております。それは総花というあたりの中での一つですね。

で、もう一つは優先順位やとか、いろんな話が出てたんですけども、これは例えば理想としているのは、このページの最後のところですよ。最後の40ページのところの、これプラットホームの考え方みたいなやつです。例えばプラットホームってどんな意味持ってるのかというと、いろんな人がとりあえず、極端なこと言うと個人の資格であろうとどんな資格であろうと、自由な参加の中で、そこで要するに意見交換をするというのと、プラットホームの片輪なんですよ。プラットホームっていうのはご存じのように、電車のターミナルのプラットホームです、語源は。そこでどんな現象が起こっているかって言うと、いっぱい人が集まりますから、ばったり旧友と会ったり、ばったり隣の人と会ったりしますよね、プラットホームの上で。そこで近況の報告のし合いをしたり、お子さんどうしてんの、みたいな話の情報交換できると。これが片輪の、一輪なんですよ。で、もう一輪は時間があったら、お互いに「おう、それやったら時間あったら改札出て飲みに行こか」という、「お茶でもしに行こか」という行動が発生するんですよ。皆さん方プラットホームでの長い経験の中で、考えてもらったらわかると思うんですけど、旧友と会ってお互いに時間あったら「それやったら30分ほどお茶飲もか」と。そういう風に行動の起点になってもらうっていうのが一つなんですよ。だから自由な活動と自由な意見交換とそこから何らかの行動が発生すると、それがこのたぶん赤丸書いてくれてて、この40ページの下丸の赤丸。これで意気投合して、なんらか共通テーマを見つけたらそこでチームが編成されて、ある一定展開していくと。たぶん一つは、何個か出ている中でも一つ大事なのは、やはりこれを知ってもらうために。結構人前でしゃべるの嫌やけど、ホームページ書くの好きやとか、ニュースレターみたいなんつくるの好きやとか、ちょっとイラストで表現するの好きやと言う方結構いらっしゃるんですよ。そういうメンバーが集まってきて、写真撮るの好きやという人と、そういう文章書くの好きやという人が手を握ってくると、簡単にニュースレター出せるんですよ。なんかそんなチームが一個発生していくと、それは一つのチームやと思うんですよ。で、何か共通できるテーマ、今言われている中でリーディングプロジェクトあるいは絵に描いた餅ではなくて実行していきましょうと言っているご発言と、もう一つは今言ったような小さなグループでもいいですし、小さな意気投合したテーマでもいいですから、小さな成功例をつくるということですね。それが一個でも小さな成功例が見えてくると、また何人かが集まって、ああそこで成功したんやったらここでもこんな活動してみましようかというような形で誘発されて活動が次々連鎖的に生み出されていくと。なんかそんな風になったらいいなと。最初の世代は小さな成功事例、できるところからできる小さな成功事例、どこでできるんやろうかみたいなやつは次年度4月からもうその先で見えてますけど、そんな議論からスタートして、あまり肩

に力を入れて、リーディングプロジェクトはどうやとか、費用対効果を考えてどれが一番効果的の活動かみたいなことはあんまり考えずにですね、まず何が出来るんやろうかと、まず皆が何が共通してできるんやろうかという、何かそういうところで小さな成功事例をぜひともつくっていただきたいし、それに対してお手伝いできるんやったらお手伝いさせてもらいたいなあと。そんなことを思っております。それがたぶん見える化になっていくと。

で、もう一つ大事な視点が、先ほど中西委員がおっしゃっていただいた、儲かれへんとやってられへんよというこのあたりですね。だからタウンマネジメントのもう一つ難しいのは、皆が汗かいて皆が身銭を切ってどんだん出金大サービスみたいな形ではなかなか続かないので、上手くそれがどう経済活動に繋がるとかいうようなあたりですね。その辺はどうやったらウィンウィンの関係をどうつくれるんかみたいなことをかなり考えないと、全部が心意気を持って、全部サービス型で、ギブアンドテイクではなくて与えることばかりしようと思うとやっぱりしんどすぎて続かないので、どちらかと言うとその辺の儲かる仕組みというのか、あるいは継続できる仕組み、その辺をもう一つは考えながらと。で、これは私、コミュニティ学者とやってよく怒られるんですけど、本来のコミュニティの防犯も防災もそうですけど、もっと身近な美しいものではなくて、お互いに財産をどう守るんですかとか、お互いに命をどう守るんですかとか、お互いに財産を守るっていうのは何も防犯って意味ではなくて、今ある家、例えば一室当たり何万円という家賃がこれがどんだん下がっていくっていうのは財産が失っていったことですよ。いいまちやったらその家賃がどんだん上がっていく、あるいは土地が売れる価格が上がっていく。こういう財産をどう維持していくんかとか、それを皆でお互いにどう高めていこうかみたいな、割と実技的な意味も持つかないと、あまり美しい姿ばかり追っかけていると、そうではなくお互いにそういう実利的な意味も持ちながら展開していきますみたいなことをですね。ぜひとも次の段階で議論できたらと。そんなことを少しとりまとめの座長として、少しだけコメントさせていただきました。ありがとうございました。

それではですね、今日の本来の議題ですけど、そしたら来年度どう進めるねんというのが一番大事ですので、ここの少しご提案をいただいて議論を進めたいと思います。よろしくお願ひします。

(3) 来年度以降の取り組みについて

(市浦H&P：小倉)

それではですね、参考資料、こういうA4の横の「来年度のすすめ方について(案)」というのと、それと資料4ですね、この意見交換会のまとめ、これをご説明したいと思います。

先ほど吉村委員のご発言にありましたように、前回の意見交換会で、その前回の意見交換会の時の資料がこのA4の横の参考資料というやつなんですけれども、これを少しご説明してですね、意見交換をしていただいた中で、非常に活発な意見がありました。それを資料4の方でご紹介してですね、それをもとに少し議論をしていただくというふうに考えております。

参考資料の方なんですけれども、来年度のすすめ方ですね、組織を作って、活動を作っていくという話で、下の方にまちづくり会議への展開、これ先ほどご説明したようなこの会議体の中にチームを作ってですね、そこに住民の人の参加っていうのをどんだん、できるだけ増やしていこうというよ

うなことのイメージです。活動の例としてなんですけれども、先ほど増田先生の方からですね、小さな成功体験というようなお話ございました。そういうこともイメージいたしまして、まず「金剛地区活性化キックオフイベントの開催、秋ごろまでに」と書いています。何かPRとなるようなイベントを行ってはどうかというようなご提案をいたしました。あとですね、「金剛バル」。これ、11月から12月ごろという予定なんですけれども、これにつきましては、昨年も意見交換会の有志の方と市の方なども含めてですね、出店はした訳なんですけれども、今回もこれに参加してはどうかということ。それと3つ目の「ひろとん」なんですけれども、これは富田林市の市民活動団体の活動をされている方たちが集まって、情報発信及び情報交換みたいなことをする場で、これ既に今年2月に行われたばかりですので、あと1年後ということになりますけれども、これに参加する。まあ、こういう3つくらいのもについてまず取り組んで、こういうのが定期的な活動になったら良いかということ。それと4つ目に書いてますのがプロジェクト活動ということで、再生指針で位置づけました話で、先ほど来、皆様からご意見いただいておりますように、何を優先的にやって、どういうふうにやったらどうなのかということをご議論いただいて取り組んでいくと。こういうようなことでいかがでしょうかということで、ご提案いたしました。

それですね、それに対しての意見交換会でこのあと意見があったやつを資料4の方ですね、これご説明いたします。

まずですね、このキックオフイベントっていうのは、どういうイメージなのかなというようなところから話が始まりまして、開いて2ページのところですね、そこから始まって5行目ですね、まずはって書いてるところで、その次にそういうイベントも良いけれども人材育成が大事ですねというご意見がございました。それとイベントについてはですね、今あるイベント、盆踊りとかされているイベント、それに連携するのが良いんじゃないかというような話。それと、イベントを行うにしても資金が課題じゃないかとかですね、そういったご意見がありました。

上から黒丸で6つ目のところにですね、既存のイベントと連携するのもよいが、新たなプロジェクトを考えて、具体的にイメージしてもらえそうなPRをするようなものをした方が良くないかというようなご意見もありました。その次にですね、小さな子どもが来ることで、その親世代も来てくれるので、そういう子ども、若い世代を呼びこめるようなことをしてはどうかというようなご意見がありまして、例えば狭山池のプランターとかですね、いろいろ事例のご紹介をいただきました。あとは、ふれあい大通りの景色の魅力をPRするようなイベントとかですね。その次に、大学との連携、大阪大谷大学さんと一緒にこれまでやってきましたけれども、大学と連携してはどうかという話がありました。

3ページの方にいきまして、体制とかいってなんなんですけれども、先ほどの話で若い世代にも参加してもらおうというようなことで、その中でですね、例えば、こういうのやると地域団体に役職を押しつけられて土日の休みがつぶれるのではないかとかですね、そういうふうにとられる方も多いんじゃないかということで、若い人にも来てもらえる魅力づくりっていうのを考えなきゃいけないんじゃないか。そのためにPTAなどで説明しに行ったらどうか。あるいは、学校の行事とかですね、なんかクラブ活動の試合なんて、そんなん応援しに行ったり、あるいは学校の行事の時にPRしに行ったらどうかというような話がありました。高齢世帯もこれ、PRが必要ですよ。先ほど副会長の方からありましたけれども、町会さんとかにも全然まだ知られてないのでというような

話が続きました。そんな中でですね、今のこの指針の状態でもPRしても、具体的なプロジェクトを作り上げた上でPRした方が興味持ってもらえるんじゃないかということでご意見ありました。イベントの企画運営チームや地域内の情報共有・情報発信チームなど分化させてはどうか、ということと、先進地の仕組みを学ぶということが重要ですねというご意見がありました。

その後ですね、いろいろ意見ありましたが、まずはメンバー同士もっと知りあわなきゃいけないんじゃないかということで、月1回ほど定期的に集まってはということで、そのくんだりからですね、そしたら花見をしましょうかということになりまして、先ほどご案内あったように4月2日に花見をしましょうということになりました。その他ですね、高辺台小学校区ですね運動会とかですね、冬にみそ汁を作って皆で飲んでみたりとか、いろいろそんなこともやっているよということで、先ほどもありましたように、既存の取り組みにですね参加していくというのも、これも一番手っ取り早いんじゃないかというご意見ありました。

メンバーの数、ちょっと多すぎることにならないかというような話も、先ほどもありましたけど、ありました。

それとですね最後、この3ページの終わりから4ページにかけてはですね、自治会・町会の方への説明と、それと町会を代表して来られてる意見交換会メンバーの方もおられますので、そういう方どういうふうにするのかというような話がありまして、これにつきましては、各町会さんには市の方から一応ですね報告をしていただいて、基本的にはこの意見交換会に来ていただいてたメンバーの方は、引き続き参加していただきたいということと、それと新たな参加者についても、これはウェルカムですよというようなことで取りまとめをいたしました。

報告としては以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

いかがでしょうか、来年度に向けてと。来年度言うてもあと10日ほどですけども。

組織としては、今までの意見交換会がイメージとしては「金剛地区まちづくり会議」みたいになる、ということですね。ここの策定委員会がどちらかというと推進協議会みたいなところに移行していくと、そんなイメージやと、組織としてはですね。

やることとしては、やっぱり具体的な活動があった方が良いやろうからということで、事務局の方では3つくらい。キックオフイベントというのと、「金剛バル」への参加というのと、「ひろとん」への参加ということ、とりあえずの目標にしたらというご提案をいただけてますけど。このへんいかがでしょうかね、どうでしょうか。

少し、小野先生、あります。いかがでしょうか。具体的にどう動かすのかという話の中で。

(小野委員)

はい、ありがとうございます。

先ほどの話を伺っていると、まずできることを早めにやった方が、そこでいろいろ人も動くし、何かアイデアが出てくるっていうことなんで、ご提案としてはありだなと思うんです。

ちょっと気になってたのが、一つは大学との連携が書いてあるんですけど、うちの大学の例で言い

ますけども、大阪府大、残念ながら堺市にありますので、実は堺市の中で大学と地域の環境を考えるとというのはかなり、大学側としてもそういう姿勢になってます。それで、これは私なんかが中心になってやったんですけど、大阪府立大学ご近所サミットという名前にして、大学の周りの自治会、校区福祉委員会とかに呼びかけて。実は大学の周りっていうのがちょうど、行政の端境になってまして、東区と中区と北区という。行政レベルで言うとちょうど分かれてるんですね。だけど大学を起点にすると、みんなぐると繋がってるんで、そういう人たちの繋がりを作ろうと。そこでどんな課題があって、大学とどんな関係を持ちたいのかっていうのを話していこうと。課題を大学に持ちかけていくと、そこらあたりがもしそういう姿勢があれば、かなりおもしろい取り組みがあるのかなというのは、見ながら思っていました。今、そういう時代になってきているんじゃないかと。

もう一つは、先ほどのプロジェクトを進めていくにあたって、既存のものだとやっぱり関係の持ち方がなかなか微妙だなというのがありますし、キックオフイベントといたらせっかく今回こういう金剛のものができたので、「できました」というものを何かお披露目会みたいなものをどうするかというイメージを僕はちょっと持ってたので、そういう意味で言うと、そういう、それこそ広く来てもらうようなものを1回くらいやっても良のかなっていうのは若干思ってたところはあります。まあ、もちろんそれは皆さんのご意見だと思いますけど、実はこれも大学の話をしますけど、大阪府立大学にボランティア市民活動センターっていうのを今度作ったんです。これを作ったことで、次どうしようっていうことだったんですけど、先ほど来あるように、まずは知ってもらうっていうことが重要なので、少しいベント的なことをやろうっていうことで、まあ大学なので講演会的なことをやりましたけれども、何かそういうここの、まちづくりこれからやりますよっていうのを知らせるような、そういうイベント案が出てきてもおもしろいかなっていうのは少し思いました。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。

例えばこの、4月2日の時のさくらまつりの時には、この概要版を配るなんてことはするんですか。そんなことはしない。

(事務局：坂口)

この4月2日はね、皆さんで飲んで楽しく時間過ごしましょうかという主旨なので。

(増田会長)

はい、どうぞ。

(友田委員)

この金剛まちづくり会議のメンバーなんですけれどもね、ここについて、意見交換会のメンバーを中心となってるんですけれども、この指針の参考の4ページのところにその意見交換会のメンバー書いてるんですけれども、ほとんどが自治会であったり地域の方々の代表になってるんですけ

ど。やっぱりこの金剛の特徴として、今日も参加いただけてますけども、きんきうえぶさんとかふらっとスペースさんとか、地域のNPOとかそういった活動団体かなりおられて、やはりそこがキーになってきますんでね、やはりそのまちづくり会議についてはそういった方々にも参加いただけてね、やはり議論を深めるとか活発にするとかね、それとかいろんな手段を持っておられますんでね、そういったところの意見を聞きながらプロジェクトを組み立てていくということが重要になってくるんで、ぜひともそういった方にも参加いただきたいなというふうに私としては思います。

(増田会長)

いかがでしょう。これ、私なんかでもいろんなところでやってると、ある一定の福祉やとか子育てやとかで特定のテーマを持って活動されているテーマ型コミュニティの、地域に根差している自治会との活動が共に手を携えてってところがなかなか難しいところがありましてね。ただ、どちらも力あるんですね。地縁型はやっぱり長年お付き合いしてきた以上に、きっちりした地縁関係持ってますし、テーマ型コミュニティの場合はどちらかというと専門家集団みたいな、知識やとか技術をお持ち。そのへんがタッグを組むと、結構おもしろいことができるんですよ。そんなあたりはぜひとも、ここにいらっしゃる、今日で言う1号委員だけではなくて、3号委員、5号委員の方々も入っていただけると、会議の方にね、これはぜひともお願いしたいなと思うんですけどね。何かそれに関連して。はい、溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

それに関連した話じゃないんですけども。

(増田会長)

なくても結構ですよ。

(溝口委員)

せっかく小野先生おっしゃったね、大学と連携という意味では、金剛団地自治会っていうのは、まだ具体的な進め方出ておりませんが、考え方としては、UR賃貸住宅に大谷大学、あるいは産業大学、この地域の大学の学生さんが入居して、そこから大学へ通う。例えば大谷大学だったら、寺池台に住めばそんな距離ない訳ですよ。それを、前回の意見交換会でも家賃が高すぎると。いや、そういう話じゃなくて、それは今日も来ておられますけどURと、それから行政と、大学と、もちろん自治会と。こういう連携の中でどこまで誰が補助できるのか、できるだけ安く学生さんに住んでいただくと、そのかわり学生さんはこの地域、コミュニティにどれだけ参加できるか、カリキュラムを組んで、あるいは集会所が、随分空き集会所があるんです。そういうところを使って、学生さんのカリキュラムを展開していくと。そうすれば、金剛地区全体の活性化にも繋がると、という意味では、まだ具体的に一步進んでおりませんが、そういう考え方を持っておりますので。この場で行政の方にもね、今後お手伝いいただくことになるかも知れませんが、ぜひやっていきたいと。

それともう一つ、さっきのキックオフイベントですか。やはりこれ、意見交換会、あるいは策定協議会に参加するメンバーだけで、うちの自治会の方でも一応お知らせはしてるんですが、具体的な中身は全然、細かくされてないんですね。そういう意味では、ちょっと幅を広げて市民に呼びかけて、こういうパンフレットができた、これは何を意味してるんだっていうことを広く知らしめるためのね、何と言うかな、少し広げた集会というか、そういうのを企画できたら良いかと、私もそういう意味では賛成したいです。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

多分、講演会だけやとつまらんとしますので、講演会プラス模擬店が出てるとか、講演会プラスワークショップが動いてるとか、何かそういうようなやつがあるとおもしろいと思うんで、企画いただいて、何かそんなことやるとおもしろいと思うんですけどね。やっぱりもうちょっと皆に知ってもらってということ、結構重要でしょうから。一番最初、これ始める時に少し講演会みたいなことやりましたよね。

他いかがでしょうかね。はい、原山委員、どうぞ。

(原山委員)

はい、すみません。先ほど小野先生の方から大学との関係の話が。昨年、民生委員連合会で、4つの大学に21名の大学生と。と言いますのはね、民生委員のなり手がいてないと、そういうことで、大阪府として「見える化運動」として、若い子に知ってもらおうと、内容を実施して、研究してもらおうということで、昨年は4校の大学にお願いして、21名の大学生、6つの自治体にお願いし、民生委員さんと一緒に各地域を見守ったり、民生委員活動どんなもんなのかとか、それから、自分も実際その体験をしてみて、ということを経験してもらいました。

平成29年度、今度はそれをもっと増やそうということで、9校の大学にお願いして、それで12の自治体にお願いすると。そして、90名の学生さんにお願いして、29年度は取り組んでいこうと。それは一つ大阪府事業として、「見える化運動」としてやっていくということでもあります。

昨年は4校の大学でしたんですが、富田林市は別途に大谷大と民生委員の役員さんと交流もって、今後進めていくということをやったものですから、府の方から「原山さん、ぜひ富田林市の場合、大谷大との交流をお願いしますか。それは自治体の方にも説明してるから。」と。「それは昨年やってますから、同じようなことやったらやりますよ。」と。そいつを皆さん方で検討し、方向づけて、若い世代の方にも理解してもらおうと。そしてまた、地域を見てもらおうと。ただ、民生委員を理解してもらっただけじゃなしで、地域全体を若い子らに見て、地域活動どんなんかというところをね、若い子らにあがってもらって、将来的な担い手となってやってもらおうということ、今年は29年度、取り組む方向で決定しております。詳細は未定ですが。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

多分そんなこともあって、これもちょうど7ページのところですね、この今日の指針の。色んな

主旨を持った、色んな組織なり団体が、色んな活動されてるんですね。ところが、それがなかなかお互いに見えない。多分、このまちづくり会議なんかのもう一つの大きな役割は、別に一緒にしなくても良いですけど、どんな活動がこの金剛ニュータウンで、金剛で動いてるのかと。それがお互いにかかるだけでも、だいぶ違うんですね。わかると、どっかで連携できる機会がないかとか、それもう少し膨らます機会がないかっていうのがわかるので、できたらそういうのも会議の中で一度、要するにどんな活動が動いてるねんと、商店街では一体年間どんな地域への展開の活動どんなことされてるのかとか、社協はどんなことしてるのかとか、自治会はどんなことしてるのかとか。今言うような民生委員の方々が一体どんなことやってるのかとか、PTAが一体どんなことやってるのかとか、ちょっと一度、一覧表にしてみるというのも非常に重要やと思うんですね。それをどないかしたら繋ぎ合やすことみたいなことでできへんかという、お互いに助け合えないかとか、そんなのも一つやと思いますけどね。有用な情報交換の場やと思うんですけどね。そうでないとお互い同じようなことをやって、何か変な足の引っ張り合いになってもしやあないですし。

はい、ありがとうございます。はい、和田委員どうぞ。

(東委員代理：和田氏)

すみません、2点聞きたいことがあって。

一つ目は、4つの指針というか、目的があると思うんですけど、大きな目標に向かって関わる担当課というのはそれぞれいてると思うんですけど、やっぱり各担当課と整合性を持つためには、現場レベルの事業所とか、地域の関わって、それに伴う関わっておられる方だけが集まってもうまくいかないんですね、経験上。で、どこがやっぱり交わっていただかないといけないかという、担当課レベルの、市役所の中の担当課レベルが同じ方向を向いていただかないといけないと思うので、このプロジェクトチームの中にそれぞれの担当課が入っていただきたいと思っているからこそ、この一番最後のプロジェクト活動の中の、例えば「公園魅力化プロジェクト」とか、これやったら道路公園課とか、「日常生活支援プロジェクト」には高齢介護とか、それに障がい、子育て、様々な担当課が関わると思うんです。という意味合いで書いていただいていると思って良いのかが一つと。

もう一つは、イベントのことさっきからあるんですけども、確認というよりは提案になるのかもしれないんですけど。金剛に有名人、お住まいというか、このキックオフっていうのにかけて、宮本選手が元々金剛地区のお住まいやったような気がするので、そういう方を目玉にいかしたい、中央公園ですかね、そういうところでイベントをするっていうのはいかがなものでしょうか。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。1点目はいかがでしょうかね。

(事務局：坂口)

はい、そうしますって言い切りたいところなんですけど。

パブリックコメントのですね、すみません、資料戻りますけど、28番の。最初、和田さんおっしゃっていただいたところをですね、市の方でですね、担当部署を超えた横断的な組織として「金

剛地区活性化研究会」を組織してますよってということで、今プロジェクト、この指針の各取り組みに関係しているだろうと思われる部署の部長・課長レベル、皆ここに入ってます。取り組み推進していくにあたって、必要に応じてその担当課呼んできて一緒に取り組みができるように連携コーディネートしていくというのが我々の仕事と思っておりますので、そのようになるように頑張りたいと思っています。

(増田会長)

それとね、もう一つはね、今日も午前中、全く違う市で景観まちづくりの委員会をしていたんですね。やっぱりどうも、そういう指針を作ると、市民への啓発、市民への啓発ばかりいく訳です。せやけど、もっと最初に大事なのは、役所の人々がそれをちゃんと理解し、協力をいただけることが大事やというので、市の人々の研修会、景観研修会みたいなやつを年に1回、ないし2回やってもらうようにしたんですね。同じことがこれなんかも大事で、ここにせっかく「金剛地区活性化研究会」があれば、これもできたら極端なことを言うところの冊子の解説をする日を作って、あるいはここで中井副会長なり、地元の代表の方なんかも入ってもらって少し説明会するとか、この策定委員会の思いを伝えるとかね、そんなのも一つで。やっぱり市の方々が部署を超えた興味を持っていただけるとか、理解してもらおうという、そんな機会も一つ大事ですよ。キックオフイベントも大事ですけど、市役所のメンバーへのキックオフイベントも一つは大事やと。

あとはプロジェクトに関しては、プロジェクトが出てきてから協力をいただかないと、プロジェクトをいただく前に関係部局全部この会議に出てこいっていうのは、これもちょっと非現実的やから、むしろ具体的に今おっしゃっているような、寺池の公園をうまく使いこなしましょうみたいなプロジェクトチームが発生したらぜひとも道路公園課が参加してくれと。なんかそんな仕組み作つとくということなんでしょうね。

(東委員代理：和田氏)

続けて言うと、担当部局がテーマを持って引っ張っていける場所っていうのも、まちづくりだけでは多分しんどいと思うんですね。こっちは地域福祉が主導でとか、高齢介護課でとか。同じ方向を向いてるのであれば、そういうふうにした方が効率が良いんじゃないかな。引っ張っていく課が違うだけであって、やることは一緒でという。もう一つ言うならば、ごめんなさい、偉いさんいる前なんです、偉いさんよりかは現場レベルの人同士がやっぱり引っ張っていかんとあかんと思います。

(増田会長)

なるほど、わかりました。

多分そんなのも大事かもしれませんよ。だから、この研究会は課長級が全部出てますっておっしゃってましたけど、ひょっとしたら担当の方々の研修会みたいなことをいっぺんやってみるみたいなことも大事かもしれない。ありがとうございます。

他いかがでしょうか、どうでしょうか。

あとは、移動はどうですか。先ほど移動が一つ大きな問題やというので、ここではあれですか。

コミュニティタクシーっていうのかな、コミュニティビジネスとしてのタクシーやとか。富田林の中でどんな形がありますか。乗合とか、そういうのは。

(東委員代理：和田氏)

住民のボランティアっていう形では、不動ヶ丘ってところがやっておられます。

(増田会長)

なるほど。そんなのも一つかもしれないですね。今までみたいなふれあいコミュニティバスみたいな形というのは、なかなか行政も維持できなくなっているところが多い。あるいは、堺なんかはもうそれ諦めてしまって、私も65になってもらいましたが、100円チケット。年間200回乗れるんですよ、結構、100円で。堺発、河内長野でも、河内長野着、堺でも、堺の発着やったらそれ使えと。南海バスの。そのかわり市はその分を補てんしてる訳ですね、南海バスに。そんな仕組みもありますよ。それはまあ、各自治体の体力やとかによって違いますけど。ある意味、ボランティアタクシー的なものっていうんですかね、それも先ほどおっしゃってた、中西さんおっしゃってた、全部儲かれへんとか、全部出費ばかりやったら続かないんで、儲からなくてもトンくらいになるようなね、そうすると生きがいだけが得たものと。そんなのも一つかも知れないですけどね。

(中西委員)

今、ヤマトとかの運送会社がそうですけども、物流っていうのはコストがすごい高いので、モノ動かす、あるいは人動かすっていうのは、多分、普通の方が思ってる以上にコストってかかるんです。だから、例えばバス動かせ、あるいは宅配してくれと、例えば私共の近隣のところへ届けるっていうのをやろうとすると、我々が逆に言うと最低ゼロでやるとします。ゼロベースでやっても、何らかのご負担をいただくっていうことが必要になってくる。それが可能かどうかっていうふうに言うと、結構難しいところがあって。

(増田会長)

そら、そうでしょうね。そのへんのあたりですね、何個か具体的に取組んでも良いような話がありますのでね。

はい、どうぞ。

(寺田委員)

今の話に、移動の話に関わるんですけども、たまたま先週か、先々週ぐらいでしょうか、12日かに、枚方の方に行って、福祉有償輸送何とかかとかの資格を取ってきたんです。それは一応、資格が欲しいなっていうのよりも、一体どんなものか知っときたいというのがあって、結構勉強させてもらったんですけど、やっぱり移動する時に、今ボランティアでやったらお金がもらえないとあって、タクシーとかのあの法律の関係があってももらえないので、ただちょっと法律を緩くしてボランティアとして、タクシーの半分って言ってたんですけど、運賃の半分までやったら、僕の行っ

た資格を取ればもらって良いっていうのがあったんです。それをちょっと上手いこと、有志の方で取って、仕組みを作ってっていうのもありかなっていうのがあって。まあ、もちろん車を用意したり、保険を用意したりっていうのが大事だと思うんですけども、何か乗る方もタダではちょっと乗りにくいっていうのもあって、ただお金をもらうことも、送っていく方はお金もらうこともできないというのがあると思うので、そういうのもちょっと、市として取り組むのもありかなというふうに思いました。僕の場合は枚方の方まで行って取らしてもらったんですけども、ちょっとそれを富田林、もしくは金剛地区で1回、講座とかをやって、色んな人が受けれる機会を作るとかっていうのだけでも良いかなというふうに思いました。

あと、さっきちょっと友田委員に言ってもらったのであれなんですけど、僕はまちづくり会議に勝手に参加しようと思ってたので、ぜひ参加させてもらいたい。今のところ一応、意見交換会、前回多分この日には資格を取りに行ってたので行けてないですけども、勝手に行っても勝手に聞いているので、また今後も参加させていただきたいと思っているので、よろしくをお願いします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうかね。

あの、多分こういう会議やって、これから何か新しいプロジェクトを生み出すための一つの秘訣はね、昔、K J法という会議の仕方をまとめた人がいらっやって、これK J法ってアメリカから入ってきたのかと思うとそうではなくて、川喜田二郎先生というのが書いた本なんですけど。もう古い本です。それは要するに、基本的には企業の中での経営者会議をする時の会議の仕方ということで、「K J法」、「続K J法」っていう本で、中央公論かな、新書かなんかでまとめられてますけど。それは絶対に人の言った意見を否定せずに悪乗りするっていうのが原則やと。要するに、ボランティアタクシー発言があってね、「いや、そんなものできませんよ。」って言うたらそこでポジションとなってしまいますので。それに対して「どうやったらできるんですか。」と、それに対して色んなアイデアを足し算して行って、ある一つのプロジェクトを生み出していくという。だから、こんなをまとめた先生が、川喜田二郎先生というのがいらっやって。まあ、そんなのも一つなんです。だから、あんまり否定せずに、今さっきの学生のURでの居住誘導みたいなやつなんかも、どうやったら皆でできるんやろかと、ハードルはいっぱいあるのは確かなんですけど、そのハードルをどうやって超えていくんやという話を皆でできたら、ある一つのプロジェクトを生み出してけるんやと思いますね。

ありがとうございます。はい、中谷委員どうぞ。

(中谷委員)

どうやって進めていくかっていう話をしてて、自分は金剛が地元ではありません。自分の地元のことを考えた時に、やってみたい気はあるんだけど、どっぷり浸かるのはしんどいなっていう人って結構いらっやると思うんですね。で、そういういわゆるライトなメンバーっていうのをどうやって引き入れていくのかっていうのが、まちを上げてできるかどうかっていうの、肝になってくる。例えば泉州地域であれば、だんじりみたいなものがあるって、コミュニティが勝手にできあがって、そこの中に若者も色んな人が参加できるような、元々あれがある。ニュータウンにはそれが

ないっていうことが一つあると思うんですね。なので、ジャストアイデアでしかないんですけども、例えば地域のサポーターみたいな登録をして、制度があって、そういう人に「こんなんあるよ」っていうメルマガみたいなのを登録してて、メルマガ発信されて、気軽に来てくださいねというような。こちらから情報を取りにいかねばわからないのじゃなくて、欲しい情報を自分で取捨選択できるような、なんかそういうふうな仕組みがあれば、自分もちよっときっかけで行ってみたい、そこの中からおもしろいから次のことやってみよう、次のことやってみよう、もうちよっと深く関わってみようかな、じゃあもうちよっとこういうことを自分でも起こしてみようかなってところの、何かきっかけになるようなことができれば、自分の立場に置き換えて考えた時に、そんな仕組みがあれば良いなというふうに思いました。

(増田会長)

そうですね。私なんかは、公園でよく参加で一緒にやる時に、3つの関わり方ができると。一つはコアメンバーとしてで、これは企画から運営まで全部やると。もう一つはクラブメンバーというので、その企画を手伝う人。もう一つ外側にビジターがいてると。何か気に入ったイベントがあったら、その時は手伝うけど、気に入ったイベントがない時は手伝わへんと。非常に気軽に関われる。コアメンバー、クラブメンバー、それとビジターメンバーみたいな、それくらいの関わり方の余裕を持ってやるとくというのが多分、一つは上手いんとちがうかなと。ビジターメンバーに関しては、常に情報だけは提供しとくという、流しとくという、何かそういうやり方で。そっから今おっしゃるようにクラブメンバーになってくれたり、コアメンバーが生み出されたりしますので。それは一つは大事なことかなと思いますけどね。ありがとうございます。

これで、あともうこれで、今年度これで終わり、後ほど市長さんにこれをお渡ししたい、というのをしたいと思ってるんですけども。次回、多分年度の変わりはおごっつい大事で、次いつ、どんな形で皆さん方が集まるんかということは確認を最後はしといた方が良いと思う。まあ、4月2日は集まられるそうなんですけど、それだけちよっと教えていただけますかね。

(事務局：坂口)

それでは、事務局の方から、来年度の予定、見通しについて報告させていただきます。

今、説明、議論でもありましたとおり、来年度、指針の策定協議会の発展型の推進協議会、それから意見交換会の発展型の（仮称）金剛地区まちづくり会議を設置させていただいて、指針の推進を進めたいと考えております。

お手元のほうに、要綱の改正案をお配りさせていただいてるんですけども、この指針策定協議会につきましては、4月1日付けでこの市の設置要綱を変更させていただく予定をしております。

大きく変わるところは、一つは名称です。「策定協議会」が「推進協議会」になります。それからもう一つは所管事項。2条の（1）になるのですけれども、指針の推進に関する事項の「推進」、旧の要綱では「策定」になっていたんですが、これを推進するための協議会ということで、名称を変更させていただいて、継続協議会とさせていただきたいと考えております。

その他、アンダーラインが入っているところは、合わせて変更させていただくのですけども、条文の整理にともなう変更となりますので、組織的なことに関してはあまり関係ないこととなっております。

ります。

名称と所掌事務の一部変更するんですけれども、今ご参加の皆様にはこのまま継続して委員として残っていただいてご協力を賜りたいと考えております。

要綱は新しく作るのではなくて、変更してそのまま使わせていただくということで、今の所、委嘱のし直しとか、委嘱状を新たに発行するとか、そういったことは考えていませんので、引き続きこのまま、新たな組織の委員として残っていただきたいと考えております。

組織から推薦いただいて参加いただいている方等につきましては、人事異動とか役職の変更、組織の変更等の理由で、交替が必要な場合もあろうかと思っておりますので、そちらの方は、年度替わってから、こちらの方から照会等もさせていただきますので、お知らせいただければと思います。変更手続きの方等も必要であればさせていただきますが、原則組織体制としては、このままで、引き続きまちづくりの推進にお力添えをいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

来年度のスタートなんですけれども、まずは（仮称）金剛地区まちづくり会議の組織作りから始めるということで、今現メンバーの意向確認も含めて、進めているところでして、4月2日にはお花見会もしながら親睦を深めて、更に4月以降、新たに町会等に説明等する中で新たなメンバーも入れていくと、40名前後位の人数がまずは妥当かと考えておりますが、そのくらいの組織作りを目指しています。

それから、友田委員からもありましたように、きんきうえぶさんとか、ふらっとスペースさんとか、ショッピングモールさん、銀座商店街さん、けあばる金剛さんにも入っていただきたいと考えております。その他の事業者、団体等の方には、URさんとか南海さんとか、大きな組織の方は、このまちづくり会議にそのまま入っていただいて毎回というのは大変かと思っておりますので、プロジェクトを進める中で一緒に連携できる場所とかはお願いしたいと思っておりますし、指針推進協議会のメンバーには入っていただいておりますので、その中で連携をしていければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

当面は、まちづくり会議を組織して、運営を初めていって、キックオフイベントをして、ということなんですけれども、来年度、この推進協議会の方は2回程度、まちづくり会議の取り組みの進捗報告とかそれに対するアドバイスを受けたいなと思っておりますので、開催させていただきますけれども、ちょっと当面、5、6月くらいの予定は未定で、また夏前後位に何らかの方向性が見えてきた時点でご案内させていただければ、というふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

（増田会長）

極力早めに、この（仮称）まちづくり会議のほうをスタートしていただいたらいいんじゃないかと思っておりますけどね。これ会議は誰が会長されているんですか。中井さんがされているんですか。

（中井副会長）

座長、無いんですね。

(増田会長)

座長、別に置かなくてもいいかもしれませんが、司会進行を皆で誰かに託すというのも一つかもしれませんけどね。

今は、どちらかというとお倉さんがやってくれてるんですか。その辺一番第三者的でいいんかもしれませんけど、その辺も少し考えていただいたらいいん違うかなと。あまりほったらかしてそれがずるずると延びないように、早く第一回目のまちづくり会議が開けるようにぜひともお願いしたいなど。

(事務局：坂口)

もう一点、お花見会のお誘いということで、これもチラシ配らせていただいたんですけども、4月2日(日)、11時～、金剛団地自治会さんのほうが主体となって実施しておられます「桜祭り」の会場をお借りして、意見交換会メンバーの親睦を深めるために、開催するんですけども、皆さんもぜひ一緒に参加いただければなと思っております。

フリーで11時頃に、裏面の地図のこの会場付近に来ていただければ、トッピーの看板持って、我々市の職員も何名かいてますし、意見交換会のメンバーさんもぞろぞろと来ていただいていると思いますので、飲み物、食べ物のご持参で、手ぶらで来られても自治会さんの方で、色んな出店もされているとお伺いしておりますし、自分の分とちょっと隣の方へお裾分けできるぐらいのものを持ってきていただければ盛り上がるかなと思いますので、ぜひともよろしくお願ひいたします。

(増田会長)

はい、だいたい予定しておりました議事はこれで終わりかと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

(溝口委員)

今の、ゆるキャラ、ぬいぐるみはしないのですか。

(事務局：坂口)

目印として、看板は持って行きます。

(溝口委員)

ではなくて、うちも大変だからやめてるんやけど、東日本大震災の時の募金を集めるときには、トッピーをお借りして、2年ほどやったら、やっぱりすごく人気があるんで、子どもに。入る人が大変なんです。行政が少しかかわるのであれば看板だけじゃなくて、用意してもらったらどうか。

(事務局：坂口)

これから、まちづくり会議で色んなイベントをするときには、トッピーもどんどん登場出来ると思うんで。

(増田会長)

そしたら、一応これで策定協議会の方はこれで終了かと思えます。皆様方、第5回にわたってご議論いただきまして、ご協力を得て、今日ある一定の取りまとめをすることが出来ました。どうもありがとうございました。

次は推進協議会に移行するというごことですので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございました。

3. 閉会

(事務局：仲野)

ありがとうございました。

それでは、本日の協議会をもちまして、指針(案)を取りまとめいただきましたので、増田会長、中井副会長から市長に報告をお願ひしたいと思ひます。

(増田会長)

富田林市長 多田利喜様。

金剛地区再生指針(案)の提出について。

富田林市金剛地区再生指針策定協議会では、ニュータウン問題が顕在化する金剛地区について、全ての住民の安心できる暮らしを守るとともに、新たに様々な人々が暮らし、集うことのできるまちとしての魅力を向上させるため、地区にかかわる様々な立場の人等とともにまちの将来像について議論し、ここに金剛地区再生指針(案)を取りまとめました。

今後は、金剛地区がより魅力的なまちとなるよう、本指針(案)に基づく取り組みの推進について、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月22日、富田林市金剛地区再生指針策定協議会、会長 増田 昇。

(事務局：仲野)

ありがとうございました。

ここで、閉会にあたり多田市長より、委員の皆様にごあいさつを申し上げます。

(多田市長)

それでは、改めまして、一言お礼のご挨拶を申し上げたいと存じます。

金剛地区再生指針策定協議会委員の皆様方には、大変ご多忙にも関わりませず、昨年7月以降、計5回にわたりまして会議にご出席をいただきまして、心から厚くお礼を申し上げる次第でございます。

特にこの金剛地区の再生指針の策定に向けましては、皆様方、大変活発なご議論を賜ったと伺っておりまして、改めて感謝申し上げたいと存じておる次第でございます。

さて、金剛地区再生の取り組みでございますが、今後の、本市のまちづくりの大きな柱となると、こう考えておるところでございますが、ただ今、指針案を頂戴いたしました。今後は、

この案を基にいたしまして、金剛地区再生指針として取りまとめながら、金剛地区の再生と活性化、そして本市の更なる発展に繋げてまいりたいと、このように考えておるところでございます。

また、本指針案の策定にあたりましては、協議会でのご議論はもちろんのこと、住民の方や地域の団体、更には関係事業者の皆様方、更には大阪大谷大学の学生の皆様等々、大変なお力を頂戴いたしました。それぞれのお立場からご意見を頂戴いたしたというふうにご供っておりまして、この作業を進めていただきましたことに対しましても、心から感謝を申し上げたいと、こう思います。

今後は、この本日お集まりの皆様方をはじめ、金剛地区に関わる全ての人や団体が、この指針を共有しながら、それぞれの立場におきまして、まちづくりの担い手となっていただくことを、心から期待をするところでございます。

本市といたしましても、引き続きまして、金剛地区の再生・活性化に精力的に取り組んでまいりますとともに、地域が中心となった取り組みに対しましても、積極的な支援を行ってまいりたいと、このように考えておるところでございます。

なお、蛇足でございますが、金剛地区に大きな影響を与えます富田林病院の建て替えでございますが、本市広報誌3月号に掲載させていただいたところでございますけれども、築後40年を経過いたしましたして、大変老朽化が進んでおるということから、指定管理をお願いいたしております大阪府済生会との間で建て替えの協議を進めておりました。今回、無事まとまりまして、現在議会の方に新年度予算として基本設計費を計上させていただいておるところでございます。24日に議会の最終日を迎えて、この議決を賜りますれば、いよいよ現実のものとして設計に取り掛かっていきたいと、こう考えておるところでございます。大体概ねでございますが5年以上の歳月がかかるであろう、こう考えておるところでございます。何分、40年という歳月が経過いたしますと、本当に建物、医療機器等々、非常に使いにくくなってきております。5年ほどご辛抱賜らなければならぬものでございますけれども、必ずや皆様方に喜んでいただける病院として、再出発できるものと、このように考えておりますので、どうぞご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

最後になりましたが、この度の委員皆様方の多大なご協力に、改めて心からお礼を申し上げますとともに、引き続きまして、金剛地区の再生・活性化に向けた本指針の推進にあたりまして、ご指導・ご協力を賜りますように、心からお願いを申し上げ、簡単ではございますが、お礼のご挨拶いたします。

本当にありがとうございました。

(事務局：仲野)

はい、ありがとうございました。これで金剛地区再生指針策定協議会の方を終了させていただきたいと思っております。どうも長い間ありがとうございました。

以上